

【共同研究】

## 感情体験の分析 ( ) 失望について

鈴木 賢男\*・上杉 喬\*\*

### Analysis of Some Emotional Experiences (4th report): On disappointment

Masao SUZUKI, Takashi UESUGI

This is the 4th report of successive studies on analysis of some emotional experiences. In these studies a special questionnaire was devised, which contains 20 emotional words. Among them are jealousy, hatred, anger, joy, sorrow, fear, disgust and so on.

Subjects were 607 students of Bunkyo University and they were required to write about thirteenth deep emotional event. The results of this study suggested that the feeling of disappointment springs up for a person to encounter something bad against expectation.

#### はじめに

本研究は、感情体験についての一連の研究の第4報であり、失望の感情を最も強く感じた体験の自由記述に基づいて、その感情の特徴を分析することである。

第1報(上杉、榎場、馬場 2002)においては、嫉妬、憎い、怒りの感情体験を分析した。その結果、嫉妬体験は、好意・愛情に関する嫉妬、能力に関する嫉妬、モノに関する嫉妬の3種類があり、その嫉妬感情が生起する特徴は、A自分にとって大切なモノ(所有したい好意・愛情、所有したい能力、所有したい物)が、B自分ではなく、C身近な人にある(好意・愛情が向けられる、能力を持

っている、物を所有している)という3者関係において、C身近な人に対して嫉妬感情が生じるというものであった。また、憎い及び怒り体験は、他者からの行為、自分の行為、社会的事象の3種類があり、その憎い・怒り感情が生起する特徴は、A自分にとって大切なモノ(大切にしている人、大切にしている物、大切にしている心)が、B行為者(他者、自分、社会的事象の行為者)との2者関係において、B行為者によって、A大切なモノが「奪われる」または「壊される」場合に生じるというものであった。憎いと怒りは、類似した特徴を有するが、その違いは、憎いが自身の直接的被害と、また怒りがより間接的な被害と結びついている点にあった。

第2報(鈴木(賢)、鈴木(国)、上杉 2002)においては、喜び、悲しいの感情体験を分析した。その結果、喜び及び悲しい体験は、人の存在に係わるもの、モノに係わるもの、

\* すずき まさお 文教大学人間科学部非常勤講師

\*\* うえすぎ たかし 文教大学人間科学部臨床心理学科

心（好意・愛情や充実）に係わるものの3種類があり、喜びの感情は、A自分にとって大切な人・モノ・心（大切にしている人、大切にしている物、大切にしている心）が、B自分自身との2者関係において、B自分自身がA大切な人・モノ・心を「得る」場合には喜びが、逆に、「失う」場合には悲しみが生じるというもので、その意味で喜びと悲しみは、それが生起する上で「得る 失う」の対極的な関係にあることを明らかにした。

第3報（上杉、岡本、平宮、吉川 2003）においては、驚き、寂しい、愛しい、空しいの感情体験を分析した。その結果、驚き体験は、大切なモノ（心・もの・能力・人）を得ることに対するもの、大切なモノ（心・もの・能力・人）を失うことに対するもの、思いもよらないこと（事実・出来事・考え方）に対するもの、思いもよらない変化に対するもの、身の危険に対するものの5種類があり、驚きの感情は、A自分にとって大切な人・モノ・心（大切にしている人、大切にしている物、大切にしている心）を得たり失ったりすること、関心のある人・モノ・心に思いもよらないことや変化があったこと、自分の身に危険を感じる事が、B自分自身との2者関係において、B自分自身にとっては「予想外」であった場合に驚きが生ずるというものであった。愛しい体験は、A自分にとって大切なモノが、B自分自身との2者関係において、B自分自身の中に取り入れていく過程で「身近になった」場合に生ずるというものであり、また、寂しい及び空しい体験は、A自分にとって大切なモノが、B自分自身との2者関係において、B自分自身に「満たされていない」場合に生じるというものであった。寂しいと空しいは、類似した特徴を有するが、その違いは、寂しいが、今まであったものが欠けてしまって今は無い状態、空しいは、求めても得られず今も無い状態、と結びついて点にあった。

本研究においても、同様に、失望の感情が生起する上での特徴を検討するものである。

## 方 法

### 1. 調査質問紙

本研究で使用した質問紙は、『体験した感情』として、嫉妬、後悔、憎い、満足、屈辱、空しい、愛しい、不安、喜び、苦しい、驚き、恐れ、怒り、寂しい、充実、嫌悪、ためらい、恥ずかしい、悲しい、失望の20感情を挙げ、「あなたの今までの体験の中で、次の1から20のような感情を最も強く抱いた体験・出来事を思い出して、それがどんな出来事だったのか、分かるように書いて下さい。また、その出来事がいつ頃（何才位）の事なのかを書いて下さい」と教示し、『その感情を体験した出来事』を30字程度のスペースに自由記述するものであった。

### 2. 調査対象・時期・手続き

B大学の「感情心理学」の授業、1999年度（227名）、2000年度（190名）、2001年度（190名）の受講生、合計607名を対象に、授業初日に調査用紙を配付し、翌週の授業に提出という手続きをとった。調査は記名式であった。

### 3. 感情体験時の年令

一つの出来事に対して1つの年令が記されていたのは、512名（84.3%）であった。これ以外は、複数の年令、または、年令に幅（期間）のある記述であったが、これらについては複数の年令の場合には感情を強く抱いた初めての年令（5才、15才 5才）とすることにし、年令に幅のある記述については中央値（高校時代 16才）とし年令を換算した。

### 失望体験の分類

調査対象者607名のうち、失望体験を具体的に記述した者は554名（91.3%）、記述しなかった者は53名（8.7%）で、この53名中5名（0.8%）は「今の状態」、「家を出ようと思ったこと」など、具体的な内容を理解するこ

とが不可能な記述をしているもので、12名(2.0%)は「いまだなし」、「とくにない」としていた。ブランク(無回答)は、36名(5.9%)であった。

失望体験は、「失望の対象(誰に、また何に失望したか)」と「失望の状況(どういう場合、状況で失望したか)」によって分類することとした。

#### 1. 失望の対象(誰に、また何に失望したか)による分類

失望体験の554名の記述から「失望の対象」について分類したところ、次の45のカテゴリー(1)~(45))に区分することができ、45の内容はさらに4つ( . ~ . )にまとめることができた。(注)体験時の年齢を( )の中を示す。

あるはずのものを失うことに関するもの

- 1) 心を許せる関係ではなくなった(裏切) :  
例えば「仲が良かった子に突然裏切られた時(9)」「一番仲のよかった友達と喧嘩して、ありもしないことを他の友達に言いふらされたこと(17)」「信頼していた人が自分に対して裏切り行為を行ったとき(18)」
- 2) 愛情関係を結べる人ではなくなる(失恋) : 「付き合っていた彼女に『好きな人が出来た』と言われてふられたこと(14)」「彼に突然別れようと言われて事態のみこめずただ泣いていたとき(19)」
- 3) 用意していた心構えが無駄になる(うそ) : 「お父さんが高校合格の嘘をついたとき(14)」「彼女いないからコンパセティングするよう頼まれて、一生懸命セティングしたら彼女がいることが発覚。私って一体と思った(19)」
- 4) 自己を肯定できなくなる(自己否定) : 「中学の頃、身体にすごくコンプレックスがあり、その事を言われると、全てを否定したくなった事があった(13)」「自分と同世代のすごい人を見たとき、自分と比べて(19)」「自分に取り得がないと思っていたとき(19)」

5) 親や教師(指導者)から見放される : 「親が自分よりも兄を気にかけていた時(15)」「受験時に、父親の不合理的な言葉の暴力により見捨てられたと感じたとき(19)」「部活の試合で最低のレースをして顧問に、もうお前は帰れ、と見放されそうになったとき(14)」

6) 夢や目標がもてなくなる : 「昔、調教師(シャチ)になりたくていろいろ話を聞いたら目が悪い人はダメと言われた(14)」「自分の一番の夢が叶わないとわかったとき(18)」「自分の目指していたものがなくなった時(12)」「将来の目標を見失った時(20)」

7) 約束したことを果たしてもらえない : 「『明日必ずCD返してね!』翌日、『ごめん、忘れてた!』(15)」「彼が『絶対タバコを吸わない』と言ったのに隠れて吸っていたとき。他の女と浮気しているほどショックだった(19)」

8) 予定していた参加や機会が取り消される : 「小学校のとき、中央地区大会で、学校対抗リレーの選手に選ばれたのに怪我をして、出してもらえなかった(12)」「後期がんばれば前期落とした分の単位もまとめてもらえるといった先生の授業で先生が代わって後期は二単位しか貰えなくなったこと(20)」

9) 死によって身近な人を失う : 「祖父が他界したとき(13)」「母が亡くなったこと(18)」

10) 自分だけに向けられるはずの愛情に疑いを感じる(浮気) : 「人に裏切られたと知った時(浮気された時)(19)」「彼女が、二股したとき(20)」

11) 友情の強さ・熱さを感じられない : 「友情は愛情に勝てないんだなと改めて知った時(18)」「友人だと思っていた人が何の連絡もせず旅立ったとき(18)」

12) 親が入院して今後の日常生活が危ぶまれる : 「父が、脳の血管がつまりぎみで倒れて入院したとき(11)」「父親が入院していたとき(18)」

13) 能力を発揮できなくなる : 「浪人している時、はじめは体育系の大学に進学したが

- ったがサッカーの試合で、自分の体力の衰えを感じ、進路を変えなくなった(18)」、思い通りのものが得られないことに関するもの
- 14) 努力したのに、期待していた合格、勝利、成果が得られない(不成功):「大学受験で、志望校に落ちたとき(16)」「すごく授業を真剣に受け、レポートも頑張った講義を落とされた(19)」「インターハイで完敗したとき(17)」「工作中自分で思っていたより、よい働きが出来なかったとき(19)」
- 15) 身近な人の理解や、好意、誠意、評価が得られない:「高校の受験を決定する時、親が反対はしなかったが不合格の場合のことを話した(14)。(ランク上の所を受験したので)。でも、親は自分の気持を理解してくれていると思っていたので、そういう親に対してがっかりした(14)」「高校の部活で周囲のメンバーが協力してくれなかったとき(17)」「教師が建前で、生徒の心配をすること(15)」「一生懸命頑張ったバイトで上司にまったく評価されなかった(19)」
- 16) 身近な人が期待していた人と違う:「母も普通の人だと気付いてしまった(13)」「剣道の先生がいやになった時(きびしすぎて)(12)」「付き合った人が思っていたのより子どもっぽかった(18)」「入ろうとしていたサークルが駅で騒ぎ、大声を出すようなサークルだったので失望したのでサークルを辞めた(19)」
- 17) 期待した自分と実際の自分が違う:「高校時代、やりたくない生徒会の役員を無理やり押しつけられて、はっきりと断れなかったとき、自分に失望した(16)」「小学6年で自分の卒業アルバムを見、自分があまりかわいくないことを認識したとき(12)」「勉強しなければいけないと分かっているのに口先だけの自分に対して(18)」
- 18) 学校の設備や環境が期待はずれ:「部活のグラウンドの環境の悪さ(18)」「大学に入った時、想像していた生活とは違っていたこと(18)」「期待していた授業がつまらない時(20)」「大学入試でうまくいかず、予備校に通うはめになり、しかもその予備校がスパルタで、刑務所みたいに管理されたところだった(19)」
- 19) 思うような能力が得られない:「成績が伸び悩んだとき自分の実力はこんなものかと思ったこと(17)」「英語の単語が覚えたいのに全然覚えられないとき(18)」「自分の力が足りないと分かったとき(20)」
- 20) 得たものが期待していたものと違う:「はじめてのデートがドラゴンボールの映画だったとき(14)」「ジャケット買ったCDが最悪だったとき(17)」「期待したような旅行(サークル活動)でなかったこと(20)」
- 21) 応援した甲斐がない:「好きだった人が高校受験に失敗したこと(15)」「サッカーワールドカップ(仏)日本チームが予選で敗退したとき(18)」
- 22) 手に入れたいものが得られない:「服を買おうとしたのに全くお金がなかったとき(17)」「歯の矯正にすごくお金がかかると聞いたとき(18)」
- 23) 運にめぐまれない:「買った宝くじがはずれた(19)」「念願の北海道旅行に行ったのに、ほぼ毎日雨が降っていたとき(19)」
- ・ 思いもよらず、直面したくなかったことを得ることに関するもの
- 24) あってはならない事件・出来事に遭遇:「財布をスりにすられた時(22)」「推薦をとれるはずが担任の勘違いで、突然一般受験にまわされたとき(15)」「彼氏が自傷したとき(19)」「信頼して相談した先生が、相談していたことを他の人にばらしていた(14)」
- 25) 身近な人の嫌な一面を知ってしまった:「高校の時、比較的仲良くなった友達の嫌な部分が色々見えたととき(17)」「部活で信頼していた人が酒を飲むとだらしく、人に迷惑をかける人だと知った時(20)」
- 26) 身近な人の悪意や本性:「今までいい先生と思っていたのに実はとんでもない野郎

- だった(13)」「憧れていた先輩が、いじわるだったことが分かった時(16)」「バイト先で、普段人柄がよく、温厚な店長が、知的障害者のお客さんに冷たい態度を取ったとき(18)」
- 27) 身近な人からの思わぬ仕打：「好きな男の子に『気持ち悪いんだよ』といわれたとき(8)」「高校最後の部活の試合に成果が出せなくて、悔しく辛かった時に、負けた事でクラブメイトの1人が口をきいてくれなかったとき(17)」
- 28) 身近な人が悪いことを犯した：「尊敬していた人(先生)が悪いことをした時(13)」「部活の先輩が、隠し撮り(写真)をしていると聞いたとき(15)」「好きだった人がゴミを道に捨てたのを見たとき(17)」
- 29) 世の中の受け取りがたい現実：「レイプ事件があるって事を知った時(10)」「大人も人間で、子どもにはえらそうなことを言うが、大人もたいしたことないと気づいたとき(13)」「世の中には尊敬するに値しない人間もいると気づいたとき(17)」
- 30) 身近な人の考え方や態度が変わってしまった：「自分と同じような考えを持っていた友人がいつのまにか、考え方や態度が全く変わってしまったとき(19)」「水商売のバイトをしている友人が『私は変わらない』と言いつつも、目に見えて変わってしまったこと(21)」
- 31) 納得できない考え方：「カンニングしてもばれないよ、と言っている人を見た(16)」「子育てに疲れたとあって母がため息をついていた時。自分の家は周りの家に比べると何も問題がないうちに入るし理想が高すぎる、その思考に少し失望した(20)」「友達を平気で利用するという話を聞いて、その子に失望した(20)」
- 32) 身近な人の気にさわる言動：「母が親族の悪口を言った時(何も子どもの前で言わなくてもいいのでは?と思った)(年齢不明)」「自分の中で、理想としていた子に『あんたいちいちうるさいよ』といわれたとき(15)」「尊敬している人に腹ただし事を言われたとき(19)」
- 33) 今まで知らなかった残念な事実：「サンタクロースのプレゼントが、デパートの見覚えのある包装紙だったとき(7)」「父と母が愛し合って結婚したわけではないことを知ったこと(18)」「父の仕事が上手くいってないと感じたとき(21)」
- 34) 自分の嫌な行動、一面：「友達にひどいことを言ってしまった自分に対して(14)」「祖父の葬式の時、涙が出なかったこと(15)」「自分の性格の悪さ(広い意味で)に気づいたとき(19)」
- 35) 身近な人たちから自分が脱落：「始めての英語のテストでみんな90点以上とってたのに、私は60点だったとき、自分自身に失望した(12)」「後輩に抜かれた自分に気づいたとき(17)」「友人数人とある神社で結婚する占いのようなものをしたところ、自分が最も結婚するのが遅いという結果が出たこと(19)」
- 36) 取り返しのつかない失敗：「結婚式場のバイトでお客さんにこぼしたグラスがかかってしまった時(18)」「浪人1年の後の受験で、受験日程を間違えたとき(20)」「バイト先で、自分のせいでクレームを出してしまったとき(21)」
- 37) 身近な人とのケンカ：「親とケンカしたとき(16)」「友人とケンカをしてお互い何も話さなくなってしまった時(17)」
- 38) 大事な場面で体に変調をきたした：「リレー(陸上)に参加するが前の競技で疲れて足がうまく動かない(14)」「ずっと元気だったのに、受験2日前に風邪をひいたとき(19)」
- ・ 期待がもてないことに関するもの
- 39) 先行きが見えそうもない：「引越先が決まらなくて、一家で真っ暗になったとき(14)」「浪人が決まって、明日が見えないと思ったとき(18)」「落ち込んでいて、未来に何も希望が持てないと思ったこと(17)」「編入試験に失敗し、この先どうしたらいい

かわからなくなり、自分の人生に対して失望していた(21)』

- 40) 変わりようがない、改善されない身近な人：「中学の友人。集団好きで1人じゃ何もできない(15)」「友人の性格がどうしようもない時、相手に対して(19)」「弟が家族の忠告をきかずに不良行為をしているとき(18)」「弟が受験なのにも関わらず、楽観的すぎて勉強をなかなかしないとき(19)」
- 41) 回避できそうにない悪い予感：「推薦試験を受けたとき、人の多さでもう大学進学なんて無理だと思い(17)」「サークル内でカップルゴタゴタ多発しそう。やっかい(19)」「『私は社会に適応していけないかもしれない』と思ったとき(19)」「高校の時勉強せず、受験になってこれから先何も良い事がないんじゃないかと思った(19)」
- 42) 身長がもう伸びることがない：「背がこれ以上伸びないと医者に言われたとき(14)」「もう自分の背が伸びないと診断されたこと(15)」「身長が伸びるのが止まったのに気付いた(19)」
- 43) 回復の可能性がないような障害：「眼鏡をかけるようになったとき(13)」「高校の部活を引退した後、足を怪我してもう激しい運動はできないと医者に言われたとき(18)」
- 44) 背が低くなることはない(不可逆)：「背が低くなることはないと思ったとき(17)」
- 45) 生きている意味がない(絶望)：「交際していた女性が死んだ事を知ったとき、生きていることに失望し、死のうと思った(14)」

## 2. 失望の状況

失望体験の記述から「どういう場合、状況で失望したのか」について分類したところ、554名の記述内容は、次の6のカテゴリーに分類することができた。

- 1) 許容外の(許容範囲を超えている)許せない出来事：「父親が私の幸せを良く思わな

かったこと。彼との別れを喜んだ(19)」「17の時付き合っていた彼に裏切られ、心を開いた友人にも裏切られた時(17)」「飼っていた鳥が死んで、きちんと世話をしていなかった自分に対して(6)」「部活で自分がやる気のある時に、先輩がただらして(20)」「レイプ事件があるって事を知ったとき(10)」「友人が、私の親友の気持をもてあそんでいる(20)」

- 2) 想定外の(想定していなかった)マイナスの出来事：「絶対に受かると言われていた安全校に落ちてしまったとき(18)」「好きな人に思いを告げたんだけど、その後の自分の情けない態度に失望。がっかり(15)」「遠くまで、サイクリングして、パンクして修理代がなかったこと(15)」「父と母が愛し合って結婚したわけではないことを知ったこと(18)」「テニスの合宿で練習では旨くいったのに、試合で力を出せず、自分に失望した(20)」
- 3) 希望の叶えられなかった、残念な出来事：「この人に愛されることはないなとはっきり気付いたとき(19)」「大学受験に失敗し、地元大学を落ちて実家を離れることになったこと(18)」「塾で教えている生徒が一ヶ月たっていないのに教えたことをすっかり忘れているとき(19)」「世の中には尊敬するに値しない人間もいると気付いたとき(17)」
- 4) 想定以上の、困惑するような出来事：「サークルで、プレーヤーの為にどんなに尽くしても認められない(19)」「一浪しても志望校に受からなかった(19)」「頑張っても勉強したのに滑り止めの大学しか受からなかった(19)」「すごく授業を真剣に受け、レポートも頑張った講義を落とされた(19)」「自分の体質(アレルギー)の度がものすごく強く、1万人に一人の割合だと告げられた時(8)」「弟が家庭の忠告をきかずに不良行為をしているとき(18)」
- 5) 暗転した出来事：例えば、「好きだった人にふられてしまった後(19)」「浪人中にな

んのために浪人したのか、目標を忘れた自分の心に(19)」「それまで試験に落ちたことがなかった私が大学入試に落ちたとき(18)」「自分の得意な分野で、限界を感じたとき(19)」「『そんなことする人じゃなかったのに...』と友達を思ったこと(19)」「それまで思っていた世界観が壊れたとき(16)」

6) 急変してマイナスになった出来事：「好きな人の電話が突然使われておらず、連絡が付かなくなったとき(21)」「父が酒に酔っていたとき(12)」「友人とけんかをしてお互い何も話さなくなってしまった時(17)」「付き合っていた彼に何の前触れもなく、別れを切り出されたとき(17)」「先生に怒られたとき(8)」

## 結 果

### 1. 失望体験の「対象(誰に、また何に)」の分布

表1. に、「失望の対象(誰に、また何に失望したか)」によって分類した4つの分類と45のカテゴリーの分布を示す。

- 1) 失望体験4分類ごとの出現頻度は、『 . あるはずのものを失うことに対する失望』が151名(27.3%)、『 . 思い通りのものが得られないことに対する失望』が218名(39.4%)、『 . 思いもよらず直面したくなかったことを得ることに対する失望』が140名(25.3%)、『 . 期待がもてないことに対する失望』が45名(8.1%)であった。
- 2) 『 . あるはずのものを失うことに対する失望』では、出現頻度10名(1.8%)以上について見ると、1位は「心を許せる関係ではなくなった(裏切)」(46名、8.3%)で、2位は「愛情関係を結べる人ではなくなる(失恋)」(25名、4.5%)、3位は「用意していた心構えが無駄になる(うそをつかれる)」(15名、2.7%)、4位は「自己を肯定できなくなる(自己否定)」(13名、2.3%)、5位は「親や教師(指導者)から見放される」(11名、2.0%)、6位は「夢や目標がもてな

くなる」(10名、1.8%)であった。

- 3) 『 . 思い通りのものが得られないことに対する失望』では、1位は「期待していた合格、勝利、成果が得られない」(98名、17.7%)、2位は「身近な人の理解や、好意、誠意、評価が得られない」と「身近な人が期待していた人と違う」「期待した自分と実際の自分が違う」(25名、4.5%)、5位は「学校の設備や環境が期待はずれ」(17名、3.1%)、6位は「思うような能力が得られない」(11名、2.0%)であった。
- 4) 『 . 思いもよらず、直面したくなかったことを得ることに対する失望』では、1位は「あってはならない事件・出来事に遭遇」(27名、4.9%)、2位は「身近な人の嫌な一面を知ってしまった」(14名、2.5%)、3位は「身近な人の悪意や本性」(13名、2.3%)、4位は「身近な人からの思わぬ仕打」(12名、2.2%)、5位は「身近な人が悪いことを犯した」(11名、2.0%)であった。
- 5) 『 . 期待がもてないことに対する失望』では、1位は「先行きが見えそうもない」(16名、2.9%)、2位は「変わりようがない、改善されない身近な人」(13名、2.3%)であった。
- ### 2. 失望体験の「年令」
- 表2. の右欄(最下段)は、失望感情を最も強く抱いた体験時の年令(4~24)を7区分に分けて、区分ごとの出現頻度を示すものである。
- 失望体験全体では、「18~20才」での体験を記述するものが最も多く、297名(53.6%)で過半数を占め、次いで、「15~17才」125名(22.6%)であった。これらに、「12~14才」57名(10.3%)、「21~24才」16名(2.9%)を合わせると、12才から最大年令である24才までの間に失望感情を最も強く抱いたものは、495名(89.4%)となった。
- それ以下の年令では、「4~5才」が1名(0.2%)、「6~8才」が13名(2.3%)、「9~11才」が25名(4.5%)であり、合計すると、

表1. 失望体験の対象別分布と年齢区分別分布

	内容	度数	%	年齢区分								
				4~5	6~8	9~11	12~14	15~17	18~20	21~24	未記入	
I. あるはずのものを失う	1 心を許せる関係ではなくなった (裏切られる)	46	8.3		1	5	8	11	20			1
	2 愛情関係を結ぶ人ではなくなる (失恋)	25	4.5				2	4	15		3	1
	3 用意していた心構えが無駄になる (うそをつかれる)	15	2.7		1			2	4	8		
	4 自己を肯定できなくなる (自己否定)	13	2.3		1		3	3	6			
	5 親や教師 (指導者) から見放される	11	2.0		1		3	3	3	1		
	6 夢や目標がもてなくなる	10	1.8				2		8			
	7 約束したことを果たしてもらえない	8	1.4		1				3	3		1
	8 予定していた参加や機会が取り消される	8	1.4			2	1	1	4			
	9 死によって身近な人を失う	5	0.9				2	1	2			
	10 自分だけに向けられるはずの愛情に疑いを感じる (浮気)	4	0.7						1	2		1
	11 友情の強さ・熱さを感じられない	3	0.5						1	2		
	12 親が入院して今後の日常生活が危ぶまれる	2	0.4			1				1		
	13 能力を発揮できなくなる	1	0.2							1		
(小計)	151	27.3			5	8	23	32	75	4	4	
					3.3	5.3	15.2	21.2	49.7	2.6	2.6	
II. 思い通りのものが得られない	14 努力したのに、期待していた合格、勝利、成果が得られない	98	17.7			1	1	15	76	2	3	
	15 身近な人の理解や、好意、誠意、評価が得られない	25	4.5			1	3	10	10		1	
	16 身近な人が期待していた人と違う	25	4.5				4	6	14	1		
	17 期待した自分と実際の自分が違う	25	4.5				1	7	12	2	3	
	18 学校の設備や環境が期待はずれ	17	3.1				1	2	12	1	1	
	19 思うような能力が得られない	11	2.0					4	6		1	
	20 得たものが期待していたものと違う	5	0.9	1		1	1	1	1			
	21 応援した甲斐がない	5	0.9					1	3		1	
	22 手に入れたいものが得られない	4	0.7						2	2		
	23 運にめぐまれない	3	0.5							2	1	
(小計)	218	39.4	1		3	11	48	138	6	11		
			0.5		1.4	5.0	22.0	63.3	2.8	5.0		
III. 思いもよらず、直面したくないものを得る	24 あってはならない事件・出来事に遭遇	27	4.9		2	2	4	4	13	2		
	25 身近な人の嫌な一面を知ってしまった	14	2.5					4	10			
	26 身近な人の悪意や本性	13	2.3				3	2	8			
	27 身近な人からの思わぬ仕打	12	2.2		3	6		2	1			
	28 身近な人が悪いことを犯した	11	2.0		1	1	2	4	3			
	29 世の中の受け取りがたい現実	9	1.6			2	2	3	2			
	30 身近な人の考え方や態度が変わってしまった	9	1.6				1	1	6	1		
	31 納得できない考え方	8	1.4			2		2	3		1	
	32 身近な人の気にさわる言動	8	1.4				1	3	3		1	
	33 今まで知らなかった残念な事実	8	1.4		1			2	4	1		
	34 自分の嫌な行動、一面	6	1.1				1	3	2			
	35 身近な人たちから自分が脱落	5	0.9				1	3	1			
	36 取り返しのつかない失敗	5	0.9				1		3	1		
	37 身近な人とのケンカ	3	0.5			1		2				
38 大事な場面で体に変調をきたした	2	0.4				1		1				
(小計)	140	25.3			7	14	17	35	60	5	2	
					5.0	10.0	12.1	25.0	42.9	3.6	1.4	
IV. 期待がもてない	39 先行きが見えそうもない	16	2.9				2	4	7	1	2	
	40 変わりようがない、改善されない身近な人	13	2.3					2	10		1	
	41 回避できそうにない悪い予感	7	1.3					2	5			
	42 身長がもう伸びることがない	4	0.7				2	1	1			
	43 回復の可能性がないような障害	3	0.5		1		1		1			
	44 背が低くなることはない (不可逆)	1	0.2						1			
45 生きている意味がない (絶望)	1	0.2				1						
(小計)	45	8.1		1		6	10	24	1	3		
				2.2		13.3	22.2	53.3	2.2	6.7		
合計	554	100.0	1	13	25	57	125	297	16	20		
			0.2	2.3	4.5	10.3	22.6	53.6	2.9	3.6		



感情体験の分析 ( ) 失望について

表2. 失望体験の対象と体験時の状況とのクロス表

	内容	度数	%	状況								
				許容外	想定外	希望が叶わなかった	想定以上	暗転	急変	その他		
I. あるはずのものを失う	1 心を許せる関係ではなくなった (裏切)	46	8.3	39	5	2						
	2 愛情関係を結べる人ではなくなる (失恋)	25	4.5	1	1	5		13		5		
	3 用意していた心構えが無駄になる (うそ)	15	2.7	4	11							
	4 自己を肯定できなくなる (自己否定)	13	2.3	1	4	4			2		2	
	5 親や教師 (指導者) から見放される	11	2.0	6		3					2	
	6 夢や目標がもてなくなる	10	1.8			4			6			
	7 約束したことを果たしてもらえない	8	1.4	2	2	4						
	8 予定していた参加や機会が取り消される	8	1.4		6	2						
	9 死によって身近な人を失う	5	0.9			1			4			
	10 自分だけに向けられるはずの愛情に疑いを感じる (浮気)	4	0.7	4								
	11 友情の強さ・熟さを感じられない	3	0.5			3						
	12 親が入院して今後の日常生活が危ぶまれる	2	0.4							2		
	13 能力を発揮できなくなる	1	0.2							1		
(小計)	151	27.3		57	29	28			28		9	
				37.7	19.2	18.5			18.5		6.0	
II. 思い通りのものが得られない	14 努力したのに、期待していた合格、勝利、成果が得られない	98	17.7		37	17	42		2			
	15 身近な人の理解や、好意、誠意、評価が得られない	25	4.5	9	5	6	3			2		
	16 身近な人が期待していた人と違う	25	4.5	6	3	12		3		1		
	17 期待した自分と実際の自分が違う	25	4.5	2	5	8		6		1	3	
	18 学校の設備や環境が期待はずれ	17	3.1	3		14						
	19 思うような能力が得られない	11	2.0			7		4				
	20 得たものが期待していたものと違う	5	0.9	1		4						
	21 応援した甲斐がない	5	0.9		1	4						
	22 手に入れたいものが得られない	4	0.7		3	1						
	23 運にめぐまれない	3	0.5			3						
(小計)	218	39.4		21	54	76	45	15	4	3		
				9.6	24.8	34.9	20.6	6.9	1.8	1.4		
III. 思いもよらず、直面したくないものを得る	24 あってはならない事件・出来事に遭遇	27	4.9	15	6					6		
	25 身近な人の嫌な一面を知ってしまった	14	2.5	13		1						
	26 身近な人の悪意や本性	13	2.3	7	6							
	27 身近な人からの思わぬ仕打	12	2.2	5		1		1		5		
	28 身近な人が悪いことを犯した	11	2.0	11								
	29 世の中の受け取りがたい現実	9	1.6	4		4		1				
	30 身近な人の考え方や態度が変わってしまった	9	1.6	1		1		7				
	31 納得できない考え方	8	1.4	6	1	1						
	32 身近な人の気にさわる言動	8	1.4	7		1						
	33 今まで知らなかった残念な事実	8	1.4	1	7							
	34 自分の嫌な行動、一面	6	1.1	1	3	1					1	
	35 身近な人たちから自分が脱落	5	0.9		3			2				
	36 取り返しのつかない失敗	5	0.9		4						1	
37 身近な人とのケンカ	3	0.5								3		
38 大事な場面で体に変調をきたした	2	0.4								2		
(小計)	140	25.3		71	30	10		11		18		
				50.7	21.4	7.1		7.9		12.9		
IV. 期待がもてない	39 先行きが見えそうもない	16	2.9		2		10		3	1		
	40 変わりようがない、改善されない身近な人	13	2.3	4			9					
	41 回避できそうにない悪い予感	7	1.3					7				
	42 身長がもう伸びることがない	4	0.7					4				
	43 回復の可能性があるような障害	3	0.5					3				
	44 背が低くなることはない (不可逆)	1	0.2					1				
45 生きている意味がない (絶望)	1	0.2										
(小計)	45	8.1		4	2		34	1	4	1		
				8.9	4.4		75.6	8.9	2.2			
合計	554	100.0	153	115	114	79	58	32	3			
			27.6	20.8	20.6	14.3	10.5	5.8	0.5			

最年少時の4才から11才のものが、39名(7.0%)となった。また、年令未記入のものは、20名(3.6%)であった。

### 3. 失望体験の「対象」と「年令」

表1.の右欄は失望体験の「対象」と「年令」のクロス表である。4大分類ごとに「年令」ごとの構成%を見ると、いずれの分類においても、最も比率が高かった年令は「18～20才」で、『. 思いもよらず、直面したくなかったことを得ることに対する失望』が63.3%、次いで『. 期待がもてないことに対する失望』53.3%、『. あるはずのものを失うことに対する失望』49.7%、『. 思いもよらず、直面したくなかったことを得ることに対する失望』42.9%であった。

また、比較的年少の3つの年令区分を一つにして「4～11才」とし、それ以降の4区分を同様に「12～24才」として失望体験の「対象」4大分類ごとに「年令」ごとの構成%を見ると、「4～11才」の比率が最も高い「対象」は、『. 思いもよらず、直面したくなかったことを得ることに対する失望』で15.0%(140名中15名)、次いで『. あるはずのものを失うことに対する失望』8.6%(151名中13名)、『. 期待がもてないことに対する失望』2.2%(45名中1名)、『. 思い通りのものが得られないことに対する失望』1.9%(218名中4名)であった。

### 4. 失望体験の「状況」

表2.の右欄(最下段)は、失望がどのような場合に、またどのような状況で体験されたのか、その出現頻度を示すものである。

絶対が要求されていたことに対する「許容外(許容範囲を超えている)許せない出来事」に分類されたものが比較的多く、153名(27.6%)、次いで、許容外ほど強いものではないが、当然そうなるはずだったことに対する「想定外(想定していなかった)のマイナスの出来事」が115名(20.8%)、次に、想定外のように確信があるわけではないが、望ん

でいたことに対する「希望の叶えられなかった、残念な出来事」が114名(20.6%)、更には、願いどおりいかなかったという点では希望が叶えられなかったわけではあるが、結果的にその後の望みが萎えてしまうような「想定以上の、困惑するような出来事」が34名(14.3%)であった。これらは、いずれも期待していた通りいかなかったことを意味するもので、合わせると461名(83.2%)となった。

また、特に「期待していた」わけではないが、日常生活が恒久的、恒常的に続いていくという暗黙の期待を損うものとして、「暗転した出来事」が58名(10.5%)、「急変してマイナスになった出来事」が32名(5.8%)であった。「その他」は3名(0.5%)であった。

### 5. 失望体験の「対象」と「状況」

表2.の右欄は失望体験の「対象」と「状況」のクロス表である。4大分類ごとに「状況」の構成%を見ると、『. あるはずのものを失うことに対する失望』では、「許容外」が37.7%で最も高く、次いで「想定外」19.2%、「希望の叶えられなかった」「暗転」18.5%で、『. 思い通りのものが得られないことに対する失望』では、「希望の叶えられなかった」が34.9%で最も高く、次いで「想定外」24.8%、「想定以上」20.6%で、『. 思いもよらず、直面したくなかったことを得ることに対する失望』では、「許容外」が50.7%で最も高く、次いで「想定外」21.4%、「急変」12.9%で、『. 期待がもてないことに対する失望』では、「想定以上」が75.6%で最も高く、その他の「状況」はいずれも10%にも満たなかった。

## 考 察

1. 失望体験554の記述から、「どのような場合、状況で失望したか」について分類した結果、その他を除く全ての失望体験は、1)許容外の出来事、2)想定外の出来事、3)希望の叶えられなかった出来事、4)想定した以上の出来事、5)暗転した出来事、6)急変し

た出来事のいずれかであり、これらは、いずれも、広い意味での期待はずれ（許容範囲を超えた、想定していなかった、希望していなかった、想定した以上だった、暗転した、急変してマイナスになった）の事象に対する体験であった。「期待はずれ」とは、期待していた（望んでいた）こと以外であったことを示すものである。このことは、必然的に、失望感情が成立する必要条件として、それに先行する“期待感”がなければならないことを示唆するものであり、また同時に、先行する“期待感”に対して、期待していた通りの事象が生じたときの感情体験とは、対極的な関係にあることを予想させるものとなった。

2. 失望体験は、「失望の対象（誰に、また何に失望したか）」についての分類から、その内容が大きく4つに分類できることが示された。その中でも『 . 思い通りのものが得られないことに対する失望』が比較的多く、しかも「18～20才」時に失望体験を強く感じている人の比率が60%を超え、同じように「18～20才」の比率が最大であった他の分類と比較しても、10～20%程度高くなっていたことがわかった。

このことは、思い通りのものが得られない体験を強く感じる年齢が青年時に多く、また他の体験（分類）よりも比較的強く失望を抱いたものであったことを示すものである。思い通りのものを得たいとする“期待感”は、自分や人、物・環境に対して積極的に関わろうとすることであり、その意味では健全で革新的な成長、発展を志向するものである。そうした機会が比較的多くあり、情熱をもてる時期はおそらく青年期の特徴でもあるだろう。現に、『 . 思い通りのものが得られないことに対する失望』の約半数を占めていたのは、「14. 努力したのに、期待していた合格、勝利、成果が得られない」（218名中98名）であった。これを求めて得られなかった失望体験は、積極さへのリスクを背負っていた“期待感”の

結果であり、残念だが仕方がないことでもあるだろう。従ってこれらのことから、『 . 思い通りのものが得られないことに対する失望』が、他の失望体験の分類と比べて、比較的ポジティブな失望（失望の中でもポジティブなもの）であることが示唆される。

また、『 . 思いもよらず、直面しなかったことを得ることにおける失望』は、年少時（4～11才）に失望体験を強く感じている人の比率自体は15%で、決して高いものではないが、それでも、他の分類よりも、10～15%程度高くなっていたことがわかった。

このことは、直面しなかったことを得てしまう体験を強く感じる機会が年少時から既にあり、それが他の体験（分類）よりも比較的強く失望を抱いたものであったことを示すものである。思った通りのままでいられるだろうという“期待感”は、自分や人、物・環境に対して抱いていた、最初の良い印象や当然のごとく思っていた信念（考え）を保ち続けられると思うことであり、その意味では保守的で消極的なものだが、このような傾向は対象（人・物・環境）に対する安定した関係の維持を志向するものである。これを得られなかった失望体験は、思いもよらないことであっただろう。このことから、『 . 思いもよらず、直面しなかったことを得ることにおける失望』は、他の失望体験の分類と比べて、比較的受身的で、状況としては「驚き」に近い失望であることが示唆される。

更に、『 . あるはずのものを失う』は、「年令」とのクロスからは特徴的なことがわからなかったものの、分類内で比較的頻度の大きかった上位5位までの「1.裏切られる」「2.失恋する」「3.うそをつかれる」「4.自己否定」「5.親や教師から見放される」で、全体の72.8%を占めていることから、この失望の意味は、今までつちかってきた信頼や愛情、あるいは自己への信頼（自信）における確かさに対する“期待感”があり、

それが損なわれてしまった結果としての失望感情であると考えられる。『 . 思い通りのものが得られないことに対する失望』ほど、積極的な“期待感”のうえでのポジティブな失望ではないが、確固とした日常生活を送る上で基盤となるものに対する失望であることから、失望感情の中でも長く尾をひき、ことによっては深刻な影響をもたらすことが予想される。このような、なくてはならないようなものに対する失望は、その意味では、失望感情を最も代弁する中心的なものと考えることができよう。

最後に、『 . 期待がもてないことに関する失望』は、他の失望体験の分類の中で最も頻度が少なく全体の10%にも満たなかったものであるものの、失望体験が生起する「状況」において「想定以上（想定した以上の、困惑するような）出来事」に分類されたものが、およそ80%を占め、この失望感情の特徴を端的に示すものとなっていた。つまり、良くない状態において、回復・回避への望みが、まだあるのではないだろうかという（期待したいという期待が「期待感」があり、それが損なわれてしまった結果としての失望感情であると考えることができ

3. 失望感情が、「期待はずれ」の事象に対して生起する感情であるという特徴を持っていることが上記で示されたが、“期待”とは、大切なものを得ることを当てにして待っている状態である。その意味では、前もってこうだろうと思う“予想”のひとつとして考えることもできる。予想の定義に準ずれば、“期待”は、前もって[大切なものを得られると]思う“予想”を当てにして待っている状態、となるだろう。このような、当てがはずれる「期待はずれ」は当然「予想外」の出来事だったはずである。先行研究（上杉、岡本、平宮、吉川 2003）では、この「予想外」の事象に対して生起する感情として「驚き」を特徴づけているが、「期待はずれ」が「予想外」の出来事と関連し

ているならば、当然の帰結として「驚き」感情の内容と類似したものが、失望体験の内容に含まれていることが予想される。今回の失望感情の4大分類の『 . 思いもよらず、直面したくなかったことを得ることにおける失望』に分類された体験の「24.あってはならない事件・出来事に遭遇」「25.身近な人の嫌な一面を知ってしまった」「28.身近な人が悪いことを犯した」「31.納得できない考え方」などは、上杉（2003）の驚き体験の分類『 . 思いもよらない事実や出来事や考え方』にも含まれていた（但し、失望体験の内容と符合するものはネガティブな感情価をもつ驚き体験）ことは、「驚き」と「失望」の類似性と相違点、更には相互の関連性を検討する必要性に、一定の根拠を与えるものとなるであろう。

4. 一般に、感情体験は、快感情v.s.不快感情を軸とする固有の感情価（プラス感情v.s.マイナス感情、またはポジティブ感情v.s.ネガティブ感情）と結びついており、悲しみの感情価がマイナスを示すことが明らかにされている（上杉 1981, 1983, 1984, 1989, 1998）。失望は、経験的にマイナス感情であることが知られているが、果たして「悲しい」感情との意味的な関連性はあるのだろうか。

上記の「驚き」と同様に、失望体験の内容には、悲しいについて分析した先行研究（鈴木（賢）、鈴木（国）、上杉 2003）で分類された内容と符合するものが多くあった。しかし、出現比率を見てみると、悲しみ体験で比率の高かったものが、失望体験では低くなり、逆に、失望体験で比率の低かったものが、悲しみ体験では高くなっていった。

悲しみ体験の出現比率が10%以上のものを取り上げると、悲しみの「29.家族、友人、身近な人の死」の出現比率が33.4%、「30.飼っていたペットの死」が16.8%であったのに対して、それに対応する失望の「9.死によって身近な人を失う（ペット1件を含む）」の出現比率は0.9%であった。悲しみ

の「27.人と別れる(卒業・引越等)」の比率は10.5%であったが、失望にはそれに対応する分類はなかった。

反対に、悲しみ体験の出現比率の下位のほうに位置するものを取り上げると、悲しみの「21.身近な人に裏切られた」の出現比率が2.4%、「18.身近な人に陰口を言われた」が0.5%であるのに対して、失望の「1.心を許せる関係ではなくなった(裏切られる・陰口)」の出現比率は8.3%、悲しみの「31.試合や試験、受験に失敗した」の2.1%に対して、失望の「14.努力したのに、期待していた合格、勝利、成果が得られない」は17.7%であった。「1.心を許せなくなる」「14.合格、勝利、成果なし」は失望体験の出現比率の上位2位を占めるものであった。

「死」や「別れ」は悲しい体験としては出現比率が高いが、失望体験としては低く、「裏切」や「不合格・敗れる」は失望体験としては比率が高いが、悲しい体験としては低い。このことは、自分や相手の力ではどうすることもできなかった「死」や「別れ」体験が失望よりは悲しい感情と結びつき、相手の気持や自分の努力・能力があれば、防げたかもしれない「裏切」や「不合格・敗れる」体験が悲しいというよりは失望の感情と結びついていたことを示唆するものである。悲しい感情と失望感情が、類似した対象を示しながらも、その出現頻度に逆転した傾向を見せたのは、その対象に自己や他者がどれだけ影響を及ぼせると感じていたのか、という点にあったと考えることができる。したがって、失望感情は、悲しい感情と、感情価としては類似するが、悲しみの単なる亜種ではなく、先行する感情(期待感)によって、悲しみとは系統を分けることのできる感情であることが予想される。

#### 参考文献

Plutchik, R., The multifactor-analytic theory of emotion, *Journal of Psychology*, 50, 153-171, 1960

- 上杉喬 感情イメージの研究 人間科学研究 第3号 22-38 1981
- 上杉喬 感情イメージの研究( ) 労働場面における感情イメージ 人間科学研究 第4号別冊 29-40 1983
- 上杉喬 感情イメージの研究( ) 労働場面における感情イメージの諸連関 人間科学研究 第5号 11-20 1984
- 上杉喬 感情イメージの研究( ) 対象による違いと性による違い 人間科学研究 第11号 1-11 1989
- 上杉喬 感情イメージの研究( ) SD法による感情イメージの検討 人間科学研究 第20号 68-77 1998
- 上杉喬・鈴木賢男 感情イメージの研究( ) 感情価とパーソナリティ特性との関連 生活科学研究 第22号 121-132 2000
- 上杉喬・榎場真知子・馬場史津 感情体験の分析 嫉妬・憎い・怒りについて 生活科学研究 第24号 25-40 2002
- 鈴木賢男・鈴木国威・上杉喬 感情体験の分析( ) 喜び・悲しいについて 言語と文化 第15号 42-66 2002
- 上杉喬・岡本かおり・平宮正志・吉川延代 感情体験の分析( ) 驚き・寂しい・愛しい・空しいについて 生活科学研究 第25号 61-89 2003